

日本イギリス哲学会 第53回 関西部会例会

日 時：2015年12月19日（土）14：30～17：45

場 所：キャンパスプラザ京都 京都大学サテライト講習室（6階・第8講習室）

交通アクセスは裏面の図でご確認ください。

報 告 1：14：30～16：00（討論を含む）

報 告 者：鈴木 真（関西福祉科学大学 社会福祉学部）

題 目：濃い概念(thick concepts)と薄い概念(thin concepts)の区別とその意義について

報 告 2：16：15～17：45（討論を含む）

報 告 者：小田川 大典（岡山大学 社会文化科学研究科）

題 目：ヴィクトリア期における宗教と教養—J・S・ミルとM・アーノルド—

なお、各研究報告の要旨は、添付の別紙をご覧ください。

例会の後、簡単な懇親会を予定しております。こちらにもどうぞお気軽にご参加ください。

また、来年度7月の部会報告をご希望の方は、以下の担当者あるいは事務局までお申し出ください。

関西部会担当

久米 暁（関西学院大学、exkume@kwansei.ac.jp）

竹澤 祐丈（京都大学、Takezawa@econ.kyoto-u.ac.jp）

（◎を@に直して下さい。）

<会場案内>

キャンパスプラザ京都 京都大学サテライト講習室（6階・第8講習室）

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る

（ビックカメラ前、JR 京都駅ビル駐車場西側）

TEL 075-353-9111



＜日本イギリス哲学会 第53回関西部会例会 報告要旨＞

報告 1：濃い概念(thick concepts)と薄い概念(thin concepts)の区別とその意義について

鈴木 真

20世紀英国の哲学者 B. Williams は、*Ethics and the Limits of Philosophy* 等で、「裏切り」や「残忍」などの濃い概念と「べき」や「善」などの薄い概念を区別した。どちらも行為指導的(action-guiding)であるが、薄い概念を含む判断は世界を表象しないのに対して、濃い概念を含む判断はある意味で世界を表象するというのである。さらに Williams は、濃い概念の記述的側面と評価的側面は切り離せず、指令主義などの非認知主義が一部の価値判断には当てはまらないと論じた。以来、S. Blackburn、J. McDowell など多くの哲学者がこの区別とその意義について論じている。

しかし、濃い概念と薄い概念の区別はカテゴリーカルには成り立たない。記述的側面については、確かに濃い概念の方が薄い概念よりも一般性や文脈依存性が低くて特定のかもしれないが、それは程度問題に過ぎない。また評価的側面は、行為指導性といった単一の尺度では測れず、記述との関係も様々である。メタ規範理論は、濃い概念を含む判断と薄い概念を含む判断に質的に異なる説明を与えるべきではなく、連続的で多様さをもつ諸価値概念を包括的に説明できる柔軟な枠組みを持つ必要がある。(関西福祉科学大学 社会福祉学部)

報告 2：ヴィクトリア期における宗教と教養—J・S・ミルとM・アーノルド—

小田川 大典

ステファン・コリーニによれば、ヴィクトリア期の中産階級にみられた「節制、自助、儉約、勤勉、義務、自律といった一般的な徳目」の根底には、「意志の力によって、官能的すなわち動物的な衝動と情念を克服する能力」を過度に強調する「ヴィクトリア朝道徳の自覚されざるカント主義」としての「品性」(character)のエートスが存在し、J・S・ミルやM・アーノルドの「教養」(culture)論は、まさにそうした厳格なピューリタンの「品性」のエートスに対する批判をその眼目としていた。本報告では、コリーニの指摘を踏まえながら、ミルの教養論が、三位一体と原罪を否定し、善人イエスを模範とした人間の完成可能性を唱えるユニテリアニズムを背景としていたこと、そしてアーノルドの教養論が、父トマスから継承したリベラル・アングリカニズムの影響下で形成されたことに着目し、ヴィクトリア朝の教養論の宗教的な背景の一端を明らかにすることを試みたい。

(岡山大学 社会文化科学研究科)